

知恵の樹

No. 179 2013. 10. 16

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

市民と図書館をつなぐ図書館協議会

町田市立図書館協議会第15期委員長 山口 洋

私は第13期より委員を4年勤めましたが、このたび委員長として協議会に関わることになりました。

図書館協議会は、図書館法にて位置づけられる組織です。公立図書館の運営に関し館長の諮問に応じ、図書館サービスについて館長に意見を述べる機関であり、条例設置され、委員は教育委員会より任命されます。すなわち利用者の代表として、公立図書館サービス維持、発展に寄与することが求められます。町田市の場合は年間11回開催し、会議は公開され、議事録はHPでも閲覧できます。これは全国的にも積極的な運営事例です。具体的には毎回、館長報告をもとに図書館の実態を検討するとともに、日常の図書館サービスに関わる質問や意見を出すほか、自主的な課題設定による審議も行います。

近3年では、町田市立図書館の理念と運営に関する館長諮問に対する答申、公立図書館の学校図書館支援に関して学校司書配置の要望の緊急提言のほか、町田市図書館評価の外部評価の実施(2009年度～毎年)なども行ってまいりました。

このような積極的に行動する図書館協議会の素地は、町田市における図書館と市民との関係にあります。町田の公立図書館は1956年に町田第一小学校の校庭の一隅に開館されたのが始まりですが、その数年前から、都立図書館の設置要求運動(1952年)、役場内の団体貸出用図書室(1953年)など、図書館設立に対する市民の要求がありました。日本における地域文庫活動誕生(1963年)も町田ですが、活動を支えた市民が公立図書館に支援を求め団体貸出として実現しました。

図書館協議会も市民の要望により1985年に条例

設置され、現中央図書館も市民の設置要望があり1990年に開館されたという経緯があります。

この様に町田の図書館は、図書館の発展を求める市民と共に成長しました。その市民の熱意が図書館協議会の設置につながり、活動を支えているのです。

公共図書館の本質については、「ユネスコ公共図書館宣言」(1949年採択1994年改訂採択)にて示される①公開の原則②無料の原則③公費支弁の原則④法的根拠⑤民主的機関、という5つの原則で説明できます。すなわち公立図書館は、利用者であり民主主義社会の主権者である市民の基本的な人権—知る権利、学習権、参政権、生存権、文化的生活を営む権利—などを社会的仕組(法的根拠と公費支弁)で実現し、民主主義社会を支えていると言えるのです。それ故に、民意を反映するための民主的運営は不可欠なのです。

また図書館法第3条では公共図書館は「土地の事情及び一般公衆の希望に沿い」図書館サービスを行うべきことを明言しております。公共図書館の民主的運営に深く関わるのが図書館協議会であるといえるのです。

市民は、気軽な読書から高度な情報収集まで支援してくれ身近に存在する公立図書館の大切さを認識し、次世代以降も存続させる責任を担っています。その市民の思いと図書館を繋ぐ役目が図書館協議会なのです。

微力ながらその職責を果たしていく所存です。皆様のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。(会員)

図書館協議会委員を委嘱されて

すすめる会所属の新任委員2名
に原稿を寄せてもらいました

図書館活動の実績と歴史を踏まえて

多田美恵子

2013年8月から第15期となる町田市立図書館協議会委員を教育委員会より委嘱された。

前期より続投されている3人の委員から指導を仰ぎながら、早速2012年度の図書館評価に入った。非常に綿密に作成された秀逸な評価表であると同時に作成時の担当者のご苦勞を思う。それぞれ協議会委員の討議、熟考を重ねていかなければならない大変重要な案件である。またそれに伴い、提言も行っていく。

過去、町田市の図書館では市民と共に作り上げてきた図書館活動の実績と歴史がある。それをしっかり踏まえて、話題性だけを求めて目の前の来館者数に一喜一憂し、サービス向上と銘打って低賃金使い捨ての人事が独善的に行われる委託への道をたどる傀儡の図書館—生き残りをかけていると言えれば聞こえがよいが一に、決して、してはならない。

理想論であると言われても屈せず、図書館と市民の協議会と共に真の意味での公共図書館を創り上げていかなければならないと思っている。

図書館を学び、図書館を伝える

清水 陽子

町田市民になって17年。町田に来るまではそれほど深く図書館とかかわっていたわけではないのですが、ひょんなことから中学校の図書指導員になり、10年間勤めました。この10年間、学校図書館を運営していく上で、市立図書館には大変お世話になりました。そして、このたびは図書館協議会

の委員に推していただいたものの、戸惑うことばかりの毎日です。

まず取り組んだのが図書館の外部評価でしたが、図書館を評価することの意味、そもそも図書館の機能とは、町田市立図書館の理念とは・・・と、あっという間にわからないことの嵐に飲み込まれてしまいました。しかし、私なりに取り組むうちに、私が10年間かかわってきた学校図書館の存在の意味を再確認できたことは予想外の収穫でした。

あふれる情報の中で忙しく生活している今の子どもたちに寄り添い、確実に応援できるのが学校図書館です。学校図書館を授業で使えば、だれもが図書館の役割や図書館の使い方を学ぶことができますし、公共図書館に行く時間はなくても、学校図書館でしたら昼休みや放課後のちょっとした時間を利用するだけで図書館ライフを実践できます。そして、学校図書館は教室以外の居場所にもなりうる貴重な空間です。学校図書館を活用することで、生涯学習の一環として「図書館を使える人」「図書館を楽しむ人」を育てることができれば、公共図書館が展開する事業もさらに深くまた広がりを持つことができるのではないかと思います。

そのためには学校図書館に本が揃っていることはもちろんですが、使える図書館を整え、図書館の使い方を教え、図書館を楽しむ事を伝える「人」がどうしても必要だとあらためて思いました。

図書館協議会委員として何ができるのかまだわかりませんが、図書館を応援したい気持ちと子どもたちの人生がより豊かになることを願う気持ちを持ち続けて取り組んでいきたいと思っています。

第15期町田市立図書館協議会委員名簿 (任期:2013年8月1日~2015年7月31日)

ご協力よろしくお願ひします!

- 1 山口 洋 学識経験を有する者 委員長
- 2 市村 省二 学識経験を有する者
- 3 高野 和美 学校教育の関係者
- 4 千田 実 学校教育の関係者
- 5 久保 礼子 社会教育の関係者
- 6 玉目 哲廉 社会教育の関係者 副委員長

- 7 清水 陽子 社会教育の関係者
- 8 多田 美恵子 社会教育の関係者
- 9 中林 君江 社会教育の関係者
- 10 砂川 とき江 家庭教育の向上に資する活動を行う者



第 15 期図書館協議会 定例会報告

(文責:山口)

第 1 回 (2013 年8月 12 日 開催)

- 1 委員委嘱
- 2 館長挨拶、委員自己紹介、委員長、副委員長選任
- 3 事務局説明 (図書館協議会議事録作成、発言方法、開催スケジュールについて)

【報告事項】

1 館長報告

1)教育委員会(8月2日)報告

議案審議事項の報告:町田市教育委員会教育目標及び基本方針の改訂、町田市教育プラン(原案)について、町田市教育委員会 2012 年度の施策等の点検及び評価報告書について

報告事項:「町田市における生涯学習の進め方について(答申)」、中央図書館及び文学館の蔵書点検の結果(図書館)

2)その他

忠生市民センター改築工事着工式 (7月 19 日)

【協議事項】

1. 図書館評価について

「2012 年度図書館評価の外部評価について(依頼)」、「町田市の図書館評価:2012 年度の評価結果および 2013 年度の評価項目」、「町田市の図書館評価」図書館評価プロジェクトチーム検討報告書(冊子)→依頼を受けて、協議会委員による外部評価方法の確認と担当のグループ分け、取りまとめまでのスケジュール確認。

2. 生涯学習審議会委員の選出

前松尾図書館協議会委員長の退任を受け、山口図書館協議会委員長が就任。

3. 今後の協議会開催日程

基本的に第4木曜日 15 時から 17 時、会場は中央館を予定。

第 2 回 (2013 年9月 26 日 15 時開催)

議事録確認:第 14 期 第 19・20 回定例会議事録
／第 15 期 第1回定例会議事録

【報告事項】

1 館長報告

1)嘱託員の採用、異動 (各1名)

2)教育委員会(9月3日)報告

第三次町田市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱の制定(図書館)

3)2013 年第3回町田市議会定例会

一般質問(9月4日)／佐藤洋子議員:核兵器のない平和な世界を町田市から発信することを求めているという質疑に関連して、図書館での読み聞かせ、原爆、憲法、平和に関するコーナーの充実を求める。→原爆、戦争の読み聞かせは過去 3 年においては無い。しかし、今年2~3月に非核都市でテーマ展示あり。また特にこのテーマを特別扱いするのではなく、出来るものをやる方向で。

一般質問(9月5日)／三遊亭らん丈議員:当市立図書館に電子書籍を。全国の公共図書館に電子書籍を提供する事業がはじまるそうだが、それへの対応を問う。→新聞報道では、角川書店、講談社、紀伊国屋など書店側から公共図書館向けサービスの提案の段階。そのため内容はまだ不明。図書館事業計画には電子書籍に関わる施策はあり。

文教社会常任委員会(9月13日)／平成25年度町田市一般会計補正予算→施設修繕費 623 千円増額補正(中央図書館6F ホールの映像設備に関わる工事、労務単価の高騰[1.5 倍]により)。

【協議事項】

1. 図書館評価について

次期5年分の図書館評価について、その原案は今年中作成、来年早々に協議会へ示す予定。→今年(2013 年)で5年目になる。過去4年分の経験から、評価項目、評価の指標、評価実施方法など全体的に見直すとともに、その点について図書館協議会と図書館側で意見調整の機会を設けたい。(山口委員、玉目委員)

2 国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の受付が10月1日からはじまるが、その件について、町田市立図書館としても情報収集と検討をお願いしたい。(山口委員)

* 図書館協議会は傍聴自由です。ご希望の方は、開催日時に会場までお越しください。次回は 10 月 24 日(木)15 時から 17 時。中央館6F ホールにて(会場変更の場合は、図書館職員にお尋ねください)。議事録は 10 月 13 日現在、第 14 期第 17 回まで HP 掲載中です。

増山正子

すすめる会・まちだ語り手の会発足時から、また、藤の台文庫でも重鎮となって、図書館協議会委員としても・・・、子どもの読書活動に長年取り組み活躍されていた宮崎淳子さんが、去る9月16日16時、大腸がんのため亡くなりました。享年67歳でした。

4月に腸閉塞で病院に担ぎ込まれ大腸癌が見つかり、その4か月後、あえなく逝ってしまわれました。

淳子さんの遺志で葬儀はご遺族だけで行われましたので、彼女を知る多くの方がご自宅に弔問に訪れ、「え～、彼女は一体何をしていたのだ」とご主人が驚かれるほど部屋は花でうずまり、悲しみが満ち満ちていたといひます。

ジャズについてはプロ級のご主人が、13年前に、長年の夢だったジャズ喫茶の店を開くことになった際、淳子さんはご自分のこれまでの生活をがりりと変えて、ご主人を100%サポートする道を選ばれました。読書活動からは退かれましたが、お客さんが少ない昼間 Nica's にお茶を飲みに行くテーブルと一緒に座ってもらって、取り留めのないお喋りをしたり、互いに相談したり愚痴をこぼし慰め合ったり、一緒にオペラを聞きに行ったり美術館に行ったりと、30年来の気のおけない友でした。

へそ文庫(増山自宅)での子どもの本を読む会にお誘いすると、課題本をしっかりと読みこなし関連資料を用意して、ただ読むだけの私に刺激を与えてくれましたが、しばらくお顔を見せないの、忙しいのだろう、その内お店に行ってみようと思っていた矢先の、突然の訃報でした。

10月2日のミュージシャンによる病気のママを励ます会は、“Memories Of Our Mama”と改名され、夜遅くまでライブが行われました。大勢の一流ジャズ奏者やシンガーが次々と演奏したり歌ったりするのを、立っているお客が多い部屋いっぱいの人たちと一緒に、隅っこの止まり木椅子に坐って聞きながら、彼女の働いていた姿を思い出し、その姿がもう見られないことに涙していました。隣には何度か一人カウンターに座って飲んでいるのを見かけたことがある女性が座っていて、「ここで好きなだけ飲んで酔いつぶれても、ママはいつも優しく話し相手になってくれて、嫌な顔一つしなかったの。とれも寂しい。こんど一緒に飲みましょうね」と話しかけてきました。

何のメッセージもない、音楽だけの偲ぶ会でしたが、部屋いっぱい流れるジャズを、淳子さんの遺影が満ち足りる様に笑いかけていました。

Nica's は10月いっぱい休み。11月からは、「ニュー Nica's」としてライブハウスになるそうです。

10月20日(日)には、Nica's を会場に、淳子さんを偲んで私たち仲間でお別れの会をします。

宮崎淳子さん さようなら
たくさんの思い出をありがとう!

守谷 信二

9月のすすめる会定例会の冒頭で、増山さんが「悲しいお知らせがあります」と切り出された。「16日の夕方、宮崎さんが亡くなられました」という言葉に、一瞬どこの宮崎さんだという思いがあり、あの宮崎淳子さんだということが俄に信じられなかった。

宮崎さんと初めてお会いしたのは、私が図書館に異動になった直後ではなかったろうか。移動図書館の担当だったが、同時に地域文庫への配本業務も行ってたので、市内でもっとも活発な活動をしていた文庫のひとつ、藤の台子ども文庫で中心的な役割を担っていたのが宮崎さんだった。小柄な体軀をいつもおしゃれな装いに包んで、弾けるような笑顔が印象的なひと。子ども本に関しては、にわか図書館員の私など及びもつかない知識と識見をお持ちだった。図書館運動にも積極的に関わっておられたので、すぐに親しくお付き合いさせていただくようになった。

ご主人と素敵なジャズのお店“ニカス”を開店され、文庫活動や図書館運動の一線からは離れられたが、わが文学館が開館したときや初めて図書館まつりを実施したときには、初日にそっとお祝いのお花を届けてくださったりして、やさしい心遣いに感動させられたことをいま思い出している。

ニカスには開店当初からしばらくの間は時々通っていたが、図書館からも異動して仕事が忙しくなるとつい足が遠のいて、近頃はまったくご無沙汰をしていた。まあ、近いのだからいつでも行ける、という思いもあったのだ。それが、こんなことになってしまった。お元気なうちに、もう一度お目にかかれればよかったという苦い後悔がある。

宮崎さん、お心に掛けて頂いて本当にありがとうございました。どうぞ、安らかにお休みください。

桃澤 洋子

宮崎さんといえば「藤の台子ども文庫」。大きな団地と大勢の子ども達を背景に、やや前のめりに歩く

一生懸命な姿が思い浮かびます。

資料も少なくなりましたが「町田市立図書館の日曜開館」「町田市立図書館の司書職増員」の請願をご一緒に行ったように思います。私は「玉川学園親子読書会」に所属していました。お互い若かったですね。でも私のほうがずっと年上のはずです。そんな中で忘れられない余話があります。宮崎さんは、確か庄内の生まれで「冬、布団を干すことが出来なかった。冬の太陽をいっぱい吸った布団で寝られるのは合わせ」・・・と。

宮崎さん、温かくしてゆっくり眠ってください。私のムコ殿の一族は庄内出身で縁が深くなりました。鶴岡出身の藤沢周平さん、中田喜直さん、大好きです。関東に生まれ育ち老いた私は、宮崎さんの古里に憧れています。

手嶋 孝典

宮崎淳子さんの訃報を聞いて愕然とした。にわかには信じられなかった。ご夫妻が経営しているジャズ喫茶 Nica's(ニカス)には、久しくご無沙汰していた。私は煙草の煙が苦手なので、ライブには殆んど行かなかったし、いつ頃からか木曜日もライブをやるようになったため足が遠のいていたのである。

9月18日(水)、町田の図書館活動をすすめる会の例会終了後、増山さんと二人で宮崎さんのご遺体が安置されている斎場を訪れた。夜遅かったにもかかわらず、宮崎さんと対面することを許してもらえた。気品に溢れた安らかな顔だった。

宮崎さんと初めて出会ったのは、「藤の台子ども文庫」に団体貸出しの本を届けた時だったと記憶している。「藤の台子ども文庫」は、公団藤の台団地の住民が廃品回収を行って建設した「藤の台ホール」の中にあっただが、団地住民が、自らの手で活動拠点を生み出したという点を私は高く評価していた。私は、1972年4月に町田市役所に就職したが、1980年5月に異動希望がかない、町田市立町田図書館(現さるびあ図書館)で館外サービス(移動図書館と団体貸出し)の担当になっていた。

当時、町田市内では、いくつかの地域文庫が活発な活動を行っていたが、「藤の台子ども文庫」は、「かえで文庫」などと共に地域文庫の優等生的な存在だった。3か月に1回くらいの割合で、300冊程度の本を入れ替えに文庫を訪れていたが、毎回

お茶とお茶菓子が振舞われ、文庫を担当しているお母さんたちと話をするのが楽しみだった。話の内容はあまり記憶にないが、図書館に対する様々な要望が多かったような気がする。その中のリーダー的存在が宮崎さんだった。

後年、図書館とメディアの本『ず・ぼん』⑥で、特集「児童書は元気かい？」を企画した時、地域文庫活動を担っている人に「文庫のひと」というテーマで書いて頂いた。町田市の地域文庫からは、「かえで文庫」の伊藤倭子さんと「藤の台子ども文庫」の宮崎さんに執筆をお願いした。宮崎さんは、「一人の母親のつぶやきから始まったバスの図書館」という一文を寄せてくださった。そのプロフィールには、「1980年から子ども文庫のおばさんになり、地域に目覚める」とあるので、宮崎さんの文庫活動を始めた時期と私が図書館で仕事を始めた時期が偶然にも重なっていることに気付いた。

http://www.pot.co.jp/zu-bon/zu-06/zu-06_048

(「児童書は元気かい? 文庫のひと」で検索)で宮崎さんの格調高い文章を読むことができる。私は、今読み返してみても、宮崎さんの文庫や図書館活動の原点に改めて触れることができた。そういえば、宮崎さんは、山形県鶴岡市の出身で、鶴岡のことを何度か語ってくれた記憶がある。

それにしても、宮崎さんは、あまりにも速く私たちの近くから去ってしまった。残念でならない。衷心よりご冥福をお祈りいたします。

伊藤 倭子

私の所属する成瀬の「かえで文庫」よりずっと前から「藤の台文庫」に携わっていた宮崎さんは、若くても私たちの先輩でした。出会ってからはいろいろ学ぶことが沢山ありました。月一度の文庫連では新しい本を紹介し合ったり読み合ったりしました。中央図書館のオープンにむけて、児童フロアの壁に大きなタペストリーを作るため何度も集り皆で工夫を凝らして作り上げたのも、宮崎さんが先頭に立って勧めてくれたから出来たことでした。また、小淵沢の東君平童話館、いわさきちひろ美術館等、見学にいきましたね。小淵沢の林の中の静かな道のあるきながら、ちひろ美術館の素敵な喫茶店の中でお茶を飲みながら、いろいろなことを話しました。文庫のこと、本のこと、文学のこと・・・。

今、宮崎さんはどこを歩いています？ いつも優しく静かで何事にも熱心な貴女は何を思って？ これからも私たちと一緒に歩いてください。いろんなことを話し合いながら。

久保 礼子

すすめる会の定例会が終わった後に、夜遅く、手嶋さんと増山さんがお二人で葬儀所へお別れに行ったということを伺い、宮崎さんへの深い思いがし

みじみ伝わり心打たれました。私は、宮崎さんと親しくお話をしたことはほとんどないのですが、先日、野津田公園での過去のイベントをチェックしていると宮崎さんが写った写真が次々に出てきます。

自然を大切に思う彼女が、そのように、いつもメールを送っていてくれたのだと、今更、気づいて感謝している次第です。

図書館の力・本の力を考える 武雄市図書館歴史資料館を学習する市民の会 井上一夫

今、武雄市図書館が売られています。全国から視察や若い人たちが訪れ、メディアも連日のように報道しています。が、その内容・実態については殆ど知られていないように思います。

武雄市図書館・歴史資料館は、図書館という公共施設から蔦屋書店とスターバックスコーヒー中心の商業施設になりました。その公共施設と商業施設の融合？が、新しい図書館として全国から興味を持たれているのでしょう。また、その新しい図書館を評価し、追随する自治体も出てきています。全国に沢山の公立図書館がありますが、ここまで商業化した図書館は武雄市が初めてでしょう。2～3年もすれば、今のように外部から人が訪れることもなくなり、人を呼ぶ図書館としての機能は終焉すると予想しています。

あと一つ忘れてならないのは、鍋島茂義侯を顕彰・その実績を展示していた蘭学館も、同時に壊されてしまったことです。館内には、武雄の歴史文化を映像で遡れる100寸の3Dビジョンなど、機器類が2,1億円の経費をかけて整備されていました。が、それもすべて撤去され、その館内は蔦屋書店のDVD・CDのレンタルコーナーになりました。

商業化されワンストップ型の図書館は若者には人気かもしれませんが、一方で子どもたちや高齢者を排除するような形になってしまいました。私たち武雄市民は「知の拠点」としての図書館・歴史資料館を無くしてしまいました。そのツケは長期的に市民の知的レベル＝市民力に現われて来るように思っています。

○本を読むことは、本に登場する多くのモデルに出会って、多様な生き方や考え方を知ることが出

来ます。いわば選択肢が増えることだと思います。一篇の詩や何気ない情報が人生の転機になることもあります。

○図書館には、現在の情報もありますが、過去の歴史も蓄積されています。どんな事実も公正に収集し、蓄積してくれるところが図書館です。後世の人は図書館に行けば、過去の歴史が分かります。歴史を知り学ぶことで、より良い未来につなげることができます。

○いくらい資料があっても、利用者がそこに行き着かないと、情報はただの紙切れです。そこで司書の力が発揮されます。司書は情報の蓄積、提供のプロで水先案内人です。機器に出来ない温もりのある柔軟な対応、新鮮で的確な資料の提供は、専門知識を学び経験を積んだプロだから出来るのです。

○良い図書館があっても遠くでは行くのが大変です。立派な図書館が地域に一つあるのではなく、身近な生活圏の中にあれば利用しやすく普段着で気楽に行けます。学校に図書館があることで授業にも直ぐに使えます。市図書館と学校図書館の連携は、さらに子どもたちの読書環境を拡大し、人の一生を豊かな方向に導いてくれます。

○人は言葉を持つことで、動物とは違う文明社会をつくることができました。言葉は自分の気持ちを相手に伝えるための大事なツールです。豊饒な言葉を持つことが、人間関係を築く基になります。言葉は使い方一つで、人を傷つけたり、人の心をほぐしたりしてくれます。

あらためて、本の力・図書館の力を地域の力にしていくことを考えてみたいと思います。

読書教育・読書事情 — 都立H高校の図書室より— (2)

鈴木 薫

前回までのお話。高校図書室の利用率が低い。だったら、授業で利用すればいいじゃないか。いいや、それが難しい。なぜ？ という展開だった。短絡的に言えば、それは都立H高校が“進学校”だからである。

短絡的に述べると、進学校を名乗るカリキュラムは「受験対応」に重きをおくので、自分で調べて考えて、などという生徒主導のまどろっこしい時間をとる余裕はないのである。教員主導で、ガンガン知識をたたき込みたい。そして、問題演習をしたい。というのが、本音だ。というと、「なにをいうか。調べる力こそが、学ぶ力なのに！」と、立腹される方も多かろう。もっともな御意見である。拝聴したいが、まずは、司書教諭の私が担当する世界史を例にして、カリキュラムの実態を知っていただいてからにさせていただいていいだろうか。

都立H高校は、学習指導要領改訂に合せ、より大学受験を踏まえた内容に変わった。世界史の場合、2年生で週2時間全員が履修する。そして、3年生になったとき、世界史受験を選択したものだけ、週4時間でさらに一部の生徒が履修する。

受験生として求められる世界史の知識は、山川出版社の教科書丸々1冊を論理的に総て理解することである。そこまでする生徒は数少ないが、真に求められている水準の高さは感じていただけるだろうか。3年生の世界史は選択なので、ここで世界史受験を選択しなかったものは、二度と世界史という科目を学ばない。なので、私は2年生の世界史で古代から近現代まで大まかに流れだけやってしまおうという、暴挙を行っている。この私の浅すぎて広すぎる授業の良し悪しを論ずるのは別の機会に譲るとして、このカリキュラムでは、のんびり図書館

で調べ物をしよう、などと言っている暇がないことだけは、感じてい

ただけるだろうか。そしてさらに、3年生では完全に受験対策モードなので、図書館を利用している場合ではなくなるのである。

他教科の事情も似たり寄ったりである。料理でいうなら、授業中に食材と調理方法と、美味しくするコツは教えておくから、調理をするのは自分でやってくれ、というようなもので、実際に生徒が調理をするかどうかは本人に任されている感じだ。そして、だいたい生徒は、見せられた食材の写真と、レシピのメモに満足して、自分で考えたり調べたりするといった調理をしない。

でも、それは一方的に生徒の怠慢だとは言いがたい。毎日のように、漢字の小テスト・英語の単語テスト・文法テストがあり、成績が悪いと進級できない、でも部活も頑張れ、友達とも思い出をつくれ、成績が悪いなら塾にもいくか？ と脅され急かされる毎日なのだ。これに加えて、携帯電話を介した友人関係の悩みに、最近流行りの学校カースト。高校に入学したとたんに、大学受験科目に関わるから、早く進路を考えるとと言われる。2年生の担任という面もつ私も、素知らぬ顔で、生徒を圧迫する側にいるわけだが、実は、本当にお疲れ様、という同情的な気持ちでいっぱいだ。

とはいえ、同情ばかりしてもいられず、忙しいから本は読まなくてもいいよ、とは言えない。本を使った知識というのは「急がば回れ」ということわざを地でいく学習法だと思うのだ。ただ、いかに焦らせず、図書館という遠回りをさせるのか。遠回りをした方が利益になると、理解させるのか。これがポイントだ。

次回。時間がないなかでも、図書館を利用させる方法。結論は、とりあえず図書館に連れて行く。(会員)

- ◇子ども夢基金助成活動「親子なかよし読み聞かせカフェ」おやつ付・無料 主催:NPO 町田市レクリエーション連盟
- ・11月29日(金)10:30~12:00/大蔵学童クラブホール(大蔵小敷地内)/問:柿の木文庫(鈴木 042-734-3964)
 - ・11月17日(日)10:30~12:00/成瀬コミュニティセンター第2会議室/問:かえて文庫(伊藤 042-725-3940)
- ◇秋のおはなし会「さまざまな彩り~耳から秋を!~」/11/23(土)14:00~15:30 町田市民フォーラム3F活動室 500円/主催:NPOまちだ語り手の会(事務局 TEL & FAX 042-795-3022)



ひろば

9月の例会報告 9/18(水)

・16:00～178号印刷(伊・玉・丸・増・桃)
18:00～20:00 中央図書館印刷室

出席者:石井、伊藤、久保、黒田、清水、多田、玉目、手嶋、野角、前田、増山、丸岡、三谷、目黒、桃沢、守谷、山口

- 会報について
- としょかん子どもまつりについて・・・9月17日(火)第3回打ち合わせに出席。今年は市立図書館全館で祭りに参加、全体企画としてビブリオバトルや外国人によるおはなし会も。また、参加団体は、団体貸出登録をしているグループのみを対象にしていることから、各館個人登録している(町田の場合殆ど個人)おはなしボランティアに地域館から協力を要請するよう動いてもらっている。(詳細については、決まり次第お知らせする)。

- 図書館協議会について (p3参照)

現在、各担当で外部評価をしている。次回の協議会は前半を公開し、後半の図書館評価は非公開とし、協議会メンバーだけで行う。

- かねて文庫・・・知り合いの元学童の指導員さんが推薦文を書いてくれてミキプルーン文庫から75冊(10万円相当)の本の贈呈式があった。今年は30箇所にも本のプレゼントがあったそうだ。(I)

- 野津田問題が継続審議になり、みどり委員会について調べるため、中央図書館と本庁に足を運んだ。新庁舎が建設された際に、以前本庁にあったやまびこの大部分の資料が廃校になった校舎の教室に移されていて、資料そのものを見るには一週間かかるとのことだった。こういうことが市民が知らないうちに行われている事実がある。原っぱがテニスコートにされてしまったら、毎年11月3日(祝)に行っている「のつだ丘の上秋まつり」が今年で最後になってしまうかもしれない。最後にならないように頑張りたい。(K)

- 語り手の会で東松島図書館に図書券を送っているが、利用者がお礼の言葉を寄せ書きした大きな白布が届き子ども達の喜びが伝わってきた。(M)

- その他

- ・図書館関連の新聞記事があると切り抜いている。

2013年度 第8回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

11月21日(木)10:30～11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算78回)

- *町田ゆかりの作家「赤川次郎」市川美奈
- *一人目目のプレゼント(赤川次郎/作)大澤里子
- *糠福と米福(日本の昔話)濱田あい子
- *青いあかり(グリム童話)宮川美智子

語り手はNPOまちだ語り手の会会員

直接会場へどうぞ! 無料 保育有

(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

武雄市長の「図書館法があると、自分のやりたいことが出来ない」という発言には驚いた。こうしたニュースをみんながどう受け止めているのか聞いてみたい気がする。(M)

・浪江夫妻書簡集刊行委員会を再開した。「あとがき」は刊行委員会で担当する。原稿が上がってから、出版社探し、校正などの作業に進む。(T)

・町田市立図書館の嘱託を休職して、自治労本部の公共民間局組織拡大局長という役職に就任することになった。期間は2年。現在、自治体の6割、民間を含めると7割が非常勤職員で、組織化されているのはその1割というのが現状。これは公共サービスの低下にもつながってしまうのではないかな。もっと処遇改善を求めている。今まで非常勤職員で本部役員になったのは、現参議院議員の相原久美子さんと私の2人だけ。図書館で働きたくて、町田市立図書館に入ったし、主任嘱託になって色々な図書館のプロジェクトにも参加していたので、休みたくないというのも事実あるが、非常勤の2割が交通費も支給されていないことなど、非常勤の立場で少しでも声の届く場所に行けることで希望の光になれたらいいと思う。嘱託職員は1年任用なので、2年休職というのは前例がない。給料は自治労から支給される。(N)

・職員として初めておはなし会で絵本の読み聞かせを行う。館内展示は「方言」を担当する。夏は鎌倉図書館のブックトークなどに参加した。(I)。

あとがき 図書館運営を受託するために嘱託職員たちがNPOを立ち上げ、順風満帆のように船出をしたが、結局は競争原理の海に漕ぎ出したようなもの。沈没しないようにワーキングプアをどんどん生みだし挙句の果ては不当な首切りまでして、仲間を裏切らねばならない惨状。全ての根幹は、自治体トップの裁量のなせる業なり。(M⁴)